



「宮古創生」

工夫と挑戦で
持続可能なまちへ



ごあいさつ

宮古市議会令和4年3月定例会議において、重点施策など令和4年度の主な取り組みを掲げる「宮古市経営方針」をお示しし、総額505億928万円の予算をお認めいただきました。

私は、市長就任以来、本市の目指す姿である「安定した仕事を持って、子どもを幸せに育てられるまち」の実現に向け、市民との対話を重視しながら、公正・公平・公開を信条に、市民総参加による官民一体となったまちづくりに取り組んでおります。

本年4月には、出崎ふ頭に新たな「海のにぎわいエリア」が誕生いたします。交流拠点となる出崎ふ頭と、運航再開の遊覧船。新たな船出に向け、万全の準備を整え、お客様をお迎えいたします。

また、宮古の地域色である「浄土ヶ浜エターナルグリーン」を遊覧船などにも活用し、宮古の「いいイロ」として親しまれるよう、市を挙げて情報を発信してまいります。

「誰ひとり取り残さない」

SDGs（持続可能な開発目標）の基本理念のもと、魅力ある持続可能なまちづくりを進めるため、「新型コロナウイルス感染症対策の着実な推進」、「再生可能エネルギーによる地域内経済循環」、「持続可能な公共交通の構築」を牽引する3つの柱として、市政運営を行ってまいります。

○新型コロナウイルス感染症対策の着実な推進

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行から2年が経過いたしました。

いまだに収束が見えない状況が続いている中、あらためて医療の最前線で従事される多くの皆さまのご尽力に感謝申し上げます。今後も、市民一丸となってこの難局を乗り越えるという決意のもと、「感染予防対策」「暮らし・経済対策」に取り組んでまいります。

○再生可能エネルギーによる地域内経済循環

宮古市では、「ゼロカーボンシティ」を表明し、2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにする取り組みを進めています。脱炭素社会の実現には、エネルギー総量の削減や効率化、再生可能エネルギーの導入を進める必要があります。

再生可能エネルギーの導入は、生活の快適性や地域内経済循環など様々な恩恵を地域にもたらします。洋上風力発電をはじめとする地域の特性を生かした新しいエネルギーの導入に向けた取り組みを進めるとともに、エネルギー事業で得た収益を地域の課題解決や公共サービスの維持につなげる仕組みを構築してまいります。

○持続可能な公共交通の構築

「宮古市地域公共交通網形成計画」に掲げる基本方針「みんなでつくる みんながつながる 公共交通」の実現に向けて、通学・通院、外出等の生活交通の維持と公共交通空白地への対策を推進します。

宮古駅の跨線橋バリアフリー化を進めるほか、八木沢・宮古短大駅のアクセス改善に向けた設計に着手いたします。また、地域バス・デマンドタクシーサービスの普及など利便性を高め、市民の利用を促進し、公共交通を次世代へと継承してまいります。

令和4年4月

宮古市長 山本正徳